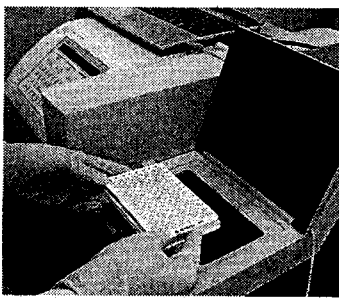


### ダイオキシン

# 5万円以下で測定

## 日本環境、人間の細胞利用

環境調査の日本環境(東京、二宮章社長、03・5207・6701)は土壌調査など向けにダイオキシンの簡易測定サービスを始めた。米社から新たな測定手法を導入、価格は従来の四分の一、期間は六分の一に短縮できるといふ。既存の精密な測定法と組み合わせ、地方自治体や不動産会社向けに売り込む。



測定期間も大幅に短縮した

米コロンビア・アナリシ、コロンビア社が開発した簡易測定方法「EPA 44425法」を導入し、対象物を加え、細胞がダイオキシンを分解するため

に生成する酵素の量を測定することでダイオキシンの排出量などを測る。米国では公的調査でのダイオキシン測定方法の一つとして認められている。日本で一般的に利用されているガスクロマトグラフィー(GC)法に比べて装置が安価なため、測定費用は一サンプル当たり五万円以下、測定にかかる期間も一週間程度

に短縮できるといふ。測定精度は現時点ではGC法に比べ若干劣るため、当面はGC法と組み合わせての利用を顧客に提案する。例えば焼却炉のダイオキシン排出を調べる場合、焼却炉周辺の複数地点から定期的にサンプルを抽出して簡易測定し、異常があった時だけGC法で再度計測する。コストが安いので顧客が調査の頻度や地点を増やす動きも出ており、初年度は五百検体の測定の受注を見込む。

日本環境は環境調査を手掛ける環境エンジニアリングと同業のカナボリが二〇〇〇年に合併してできた。GC法によるダイオキシン測定を年間約二千検体手掛けている。二〇〇二年六月の売上高は二十二億円を見込む。

日経産業新聞  
日本経済新聞

2002年5月24日(金)  
2002年6月3日(月)

【19】ベンチャー・SOHO面  
【19】ベンチャー面

### 日本環境が 研究所新設

環境調査の日本環境(東京、二宮章社長、03・5207・6701)は十二億円を投じ横浜市内に研究所を新設する。

二〇〇三年一月に土壌汚染対策法が施行されるのをにらんで、ダイオキシンや環境ホルモンなど微量物質の分析・測定を企業などから請け負う事業や新規測定技術の研究開発を強化する。

新研究所は延べ床面積約二千二百平方メートル、十一月に完成する。ダイオキシンの濃度レベルごとに三種の部屋を設け、空気や機器を通じ汚染が広がり分析に誤差が出るのを防ぐ構造を持つ。ダイオキシン類の分析能力は従来の年間約二千検体から倍以上に増える。

従来の試験所は通常レベルの分析業務に特化。新研究所に最大七十人を配置し、高度な分析や先端研究を手掛ける。三年後には売上高の約三割に当たる九億円を新研究所で稼ぎ出す。